Bulletin of the Educational Research and Development, Faculty of Education, Kagoshima University
2020, Vol.29, 265-272

報告

自分の思いや考えを構築する言葉を見いだす国語科学習指導
―第２学年「話すこと・聞くこと」の実践―

古 園 正 樹［鹿児島大学教育学部附属小学校］

Japanese language instruction that allows students to find the words to express their thoughts and desires: A look at the second grade "speaking and listening"

FURUZONO Masaki

キーワード：思いや考えの構築、話すこと・聞くこと、言葉、資質・能力、学習指導

1. 言葉とは

私たち人間は，相手と互いに意思疎通を図ったり，自分自身で物事を考えたりしながら生活を営んでいる。その際，言葉が非常に大きな役割を果たしているといえる。言葉を母語としての国語という観点から捉え直すと，国語の果たす役割とその重要性について「社会的機能」「個人的機能」「文化的機能」の３点で整理することができる。

一方，現代社会における言語環境は，情報を取捨選択しながら新しい考えを創造することが重視される。例えば，インターネットやＳＮＳが普及したり，国際化の進展により多様な言語が身の回りに溢れたりするなど，私たちを取り巻く言語環境は常に変化しているといえる。

そのような状況の中で，平成 29 年度に改訂された新学習指導要領では，国語科で育成を目指す資質・能力を「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」としており，前回と大きく変わっていない。これは，「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」が，どのような社会においても必要とされる国語の力だからである。このような資質・能力を育成するためには，国語で理解したり表現したりする「知識及び技能」を状況に応じて思考・判断・表現することを通じて生きて働く「知識及び技能」として身に付けることが重要である。

2. これまでの実践による課題と子どもの実態

これまでの実践を基に子どもたちの実態を分析すると，子どもたちは言語活動によって自己の課題を捉え，学習に主体的に取り組むことができるようになった。また，言葉に着目して自分の考えを伝え合い，自分の思いや考えを深めることができるようになった。しかし，自分の思いや考えを深める言葉のよさを多角的に考え，実生活でも活用しようとする姿が十分に見られなかった。

これまでの実践で見られた課題となる子どもの姿について，その要因を次の２点で捉えた。１つは，課題解決のために集めた情報を多角的に考察しながら自分の考えを構築し，その考えに基づいて論理的に表現を組み立てる経験が少なかったことである。もう１つは，理解したり表現したりするための言葉を粘り強く吟味したり，他者との関わりの中で言葉のよさを実感しながら実生活で活

用できる状態になっていなかったからだと考えられる。

3. 自分の思いや考えを構築する言葉を見いだす過程で必要となる資質・能力

以上を踏まえると，今後の方向性として，子どもに自分の思いや考えを構築する言葉を粘り強く見いださせていくことや，多角的な視点で対象を捉えて正確に理解したり表現したりすることができるような国語科の学びを明らかにする必要がある。それによって，子どもは言葉への自覚を高め，言語生活を充実させることができるようになると考えた。このような子どもの姿になるように，本研究を通して目指す子ども像を「言葉への自覚を高め，言語生活を充実させることができる子ども」と設定した。

このような子ども像を目指すために，自分の思いや考えを構築する言葉を見いだす過程で，特に必要となる資質・能力を整理した。表１は，自分の思いや考えを構築する言葉を見いだす言葉を見いだす過程で必要となる資質・能力となっている（表１）。

4. 自分の思いや考えを構築する言葉を見いだすとは

「自分の思いや考えを構築する言葉を見いだす」とは，様々な事物や経験等の対象に対する自分の思いや考えを正確に理解したり適切に表現したりすることである。その際，言葉による見方・考え方を働かせながら，必要な語彙や文法，表現などに関する知識及び技能を習得したり活用したりすることを繰り返すことで自分の思いや考えを構築することができる。

具体的には，まず，子どもは話題となる対象との出合いや表現したいという思いから，自他の表現の適否，正誤，美醜について判断し，どのように表現すべきか，あるいは表現をどのように受け取るかという課題を見いだす。次に，対象と言葉，言葉と言葉の関係を粘り強く吟味したり，自分の経験や他者との伝え合いから多角的に問い直したりして，考えを深めたり新たな知識を獲得したりする。そして，対象への理解や表現の仕方について，互いに納得したり認め合ったりすることで，自分の言葉で伝え合うことができたという達成感を味わう。その結果，学んだことが日常生活において発揮され，自分の思いや考えを構築する言葉がさらに磨かれていく。

以上を踏まえて，自分の思いや考えを構築する言葉を見いだす国語科の授業像を「『もっと理解したい』『分かりやすく表現したい』という願いを基に課題を見いだし，自分の経験や他者の考え

表１　自分の思いや考えを構築する言葉を見いだす言葉を見いだす過程で必要となる資質・能力

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
○　日常生活に必要な言葉の働きや役割，特徴やきまり，使い方を理解し適切に使うことに関する知識及び技能	○　情報を多角的に捉えて構造化する力 ○　言葉によって感じたり想像したりする力 ○　言葉を通じて伝え合う力	○　言葉を通じて積極的に人や社会と関わり，自己を表現しようとする態度 ○　言葉で粘り強く課題解決しようとする態度

と比較したり関係付けたりしながら言葉を吟味することで自分の思いや考えを構築するとともに，新たに獲得した知識や技能を活用するよさが実感できる授業」と捉えた。

このように，自分の思いや考えを構築する言葉を見いだす国語科授業を展開するためには，課題解決のために話したり聞いたり書いたり読んだりした言葉を，自分の経験や知識と重ねて理解したり表現したりすることで自分の考えを構築することが大切である。そのためには，まず，子ども自身が言葉を自分に向けられたものとして受け止められるような言語活動を展開するとともに，誰かに伝えたいという意欲をもたせることが課題解決に向けた第一歩となる。その際，言葉を自分の知識や経験と重ねて考えを伝えたり他者の考えを受け入れたりすることで，自他の考えの共通点を明確にすることができる。さらに，一人一人が自分の考えを支える言葉にこだわるだけでなく，自分の考えとつながっていなかった言葉にも向き合いながら自分の思いや考えを構築することが重要である。

5. 学習指導の基本的な考え方

自分の思いや考えを構築する言葉を見いだす国語科授業像に迫るためには，子どもが対象に対して「理解したい」「表現したい」などの思いをもちながら言語活動に対する意欲を高め，これまでの学習で身に付けてきた「知識及び技能」を意識しながら言葉を多角的に捉えて構造化したり，言葉を通じて他者と伝え合いながら粘り強く課題解決を図ろうとしたりすることが大切である。その際，「知識及び技能」は，子どもが自分の経験や他者との伝え合いから収集した情報を基に考えを構築したり，複数の情報を基に構築した考えの中から一般化したりするなど，授業の場面によって様々な状態が想定される。そこで，自分の思いや考えを構築する言葉を見いだす過程において想定される「知識及び技能」の状態と，それらが「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」とどのように関連しているか整理した。表２は自分の思いや考えを構築する言葉を見いだすために必要な資質・能力の関連となっている（表２）。

例えば，第３学年の単元「せつめいのくふうについて話し合おう」（教材「すがたをかえる大豆」）では，次頁の表のような単元の目標設定で，「たまごや米など，自分にとって身近な食材がどのような食品に姿を変えているか，互いに説明する文章を書く」という，子どもにとって身近な話題を基に言語活動を設定することが考えられる。表３は単元「せつめいのくふうについて話し合おう」における目標となっている（表３）。

「知識及び技能」の「段落の役割」について考察する。３年生の子どもにとって，これまで自分の経験から，段落は「文章を組み立てているまとまり」として認識されている（知Ａ）。しかし，教材「すがたをかえる大豆」を読み取ることで，筆者が「大豆をおいしく食べる工夫」を「豆腐」や「納豆」「しょうゆ」など，複数の事例を用いて説明していることから各段落の関係について思考し（思Ｂ），「段落は，並べ方を工夫することで，読み手に分かりやすく説明することができるのだな。」という理解まで深めることができる（知Ｂ）。さらに，「『段落の役割』を生かして，〇〇の食材がどのような食品に姿を変えているか，友達に分かりやすく説明したいな。」という

表２　自分の思いや考えを構築する言葉を見いだすために必要な資質・能力の関連

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
自分の経験や教材･友達などの他者から収集した複数の情報から獲得した知識及び技能(知Ａ)	○　感情や想像を言葉にする力 ○　既有知識・経験と関係付ける力(思Ａ)	言葉がもつ曖昧性や表現による受け取り方の違いを認識し，自分の考えを深めようとする態度(学Ｃ)
獲得した複数の情報を基に構築したものの中から一般化された知識及び技能(知Ｂ)	情報と情報の関係性を吟味して考えを形成する力(思Ｂ)	言葉を通じて，自分のものの見方や考え方を深めようとする態度(学Ｂ)
一般化された知識及び技能の中で，目的や相手，場面に応じて活用される知識及び技能(知Ｃ)	目的や相手，場面に応じて，新しい問いや仮説を立て，問題を解決する力(思Ｃ)	言葉を通じて積極的に人や社会と関わり，自他を尊重しようとする態度 (学Ｃ)

思いをもたせて実際に活用させることで(学Ｃ)，「段落の役割」に対する理解がさらに深まる(知Ｃ)。このように，子どもが意欲をもって言語活動に取り組み，自分の経験や他者との伝え合いによって粘り強く言葉を吟味するような授業を展開することで，自分の思いや考えを構築する言葉を見いだすことにつながると考える。

6. 授業実践

6.1. 実践の立場

授業実践として，第２学年の単元「だいじなことをおとさずに話したり聞いたりしよう」(教材「ともこさんはどこかな」光村２年上）を行った。本単元は，目的意識をもち，複数の情報の中から大事な情報を選んで話したり，話の中で大事なことを落とさずに聞いたりする能力を身に付けさせることをねらいとしている。

6.2. 教材について

教材「ともこさんはどこかな」は，特徴が同じであったり異なっていたりする人々が集まる遊園地の絵と，迷子のアナウンスという２つの要素で構成されている。大事なことを落とさずに話した

表３　単元「せつめいのくふうについて話し合おう」における目標

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
○　接続する語の役割 ○　<u>段落の役割</u>	段落と段落の関係性を吟味しながら，考えとそれを支える事例との関係を捉えることができる。	考えやそれを支える事例など，段落と段落の関係性に着目して粘り強く文章を読み，自分の考えを表現しようとすることができる。

り聞いたりするためには，複数の観点で人物の特徴を捉え，それらを落とさずに話したり聞いたりすることが大切である。そこで，迷子探しゲームを中心に話したり聞いたりすることを単元の言語活動として設定する。特に，学習の展開にあたっては，次の２つを考慮する。まず，迷子探しゲームなどの活動を通して，子どもに日頃の話し方や聞き方を想起させ，「自分にもできそうだ」「生活に生かせそうだ」という意欲をもたせながら学習課題を焦点化させることである。次に，見いだした話し方・聞き方を往　還しながら，自他が話したり聞いたりする様子を吟味させることである。

6.3. 本単元の目標及び指導計画

本単元の目標として「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」の３点から以下のように設定した。表４は本単元の目標となっている。

また，指導計画を全４時間として位置付けた。表５は本単元の指導計画となっている。

表４　本単元の目標

知識及び技能	大事なことを落とさずに聞いたり，相手に分かりやすい観点で話したりすることができる。
思考力，判断力，表現力等	２つのアナウンスを「人物の特徴」の観点で比較しながら聞いたり，遊園地にいる人物の複数の特徴を選んで話したりすることができる。
学びに向かう力，人間性等	大事なことを落とさないように，人物の特徴を表す言葉を友達と話し合って吟味しながら話したり聞いたりしようとすることができる。

表５　本単元の指導計画

学　習　活　動	教師の具体的な働きかけ
１　言語活動・学習課題の焦点化 迷子を探すには，どんなことに気を付けて話したり聞いたりすればよいかな。	話すこと・聞くことに対する課題意識をもたせるために，子ども同士で迷子探しゲームをしながら感じたことや困ったことを話し合わせる。
２　迷子探しで大切な聞き方 どんなことに気を付けて聞けばよいかな。	大事なことを落とさずに聞くことの大切さに気付かせるために，遊園地にいる複数の人物を探す活動をした後，どのようなことに気を付けながら聞いていたか話し合わせる。
３　迷子探しで大切な話し方（本時） どんなことに気を付けて話せばよいかな。	相手に分かりやすい特徴を選んで話すことの大切さに気付かせるために，迷子のアナウンスを２つ提示して，それぞれにどのような特徴があるか話し合わせたり，聞き方と関係付けさせたりする。
４　話し方・聞き方の活用 大事なことを考えながら遠足の連絡をしよう。	話し方・聞き方の高まりを実感させるために，迷子探しゲームで見いだした話し方・聞き方と遠足の連絡の仕方を関係付けさせる。

6.4. 本時について

目標は，迷子を探す活動を通して，２つのアナウンスを「服装の特徴」「持ち物」の観点で比較して人物を特定しやすい言葉を友達と吟味しながら選び，迷子を知らせる放送ができることである。展開に当たって，服装の特徴・持ち物の伝え方が異なる２つのアナウンスについて話し合う活動を設定したり，「聞くときに気を付けていたことは何か」と問い，聞くときに大切なことと関係付けて話し合わせたりする。図１は本時の実際，図２は，アナウンスＡ・Ｂ，写真１は実際に行った授業の板書となっている。

6.5. 考察

「つかむ・みとおす」過程では，課題意識をもたせるために，前時に行った試しの迷子探しゲームで，迷子を見つけられたときと迷子を見つけられなかったときの理由を確認させた。子どもたちは，「どんなことに気をつけて話せばよいか」という問いをもち，課題意識を高めて学習に取り組むことができた。

また，「しらべる・ふかめる」過程では，服装の特徴・持ち物を表す複数の言葉の中から大事な言葉を考えさせるために，２つのアナウンスが書かれたカードを提示し，「Ａ・Ｂの話し方で迷子が分かりやすいのはどの言葉かな。」と問い，最も分かりやすい話し方を選ばせた。子どもたちは，２つのアナウンスを「人物の特徴」の観点で比較しながら聞いたり，遊園地にいる人物の複数の特徴を選んで話したりすることができた。

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす	１　本時の学習課題を設定する。 迷子探しゲームでは，大事なことに気をつけて聞けたよ。 今日は話すことだ。どんなことに気を付けて話せばいいかな。 どんなことに気をつけてはなせばよいかな。	7	**○　課題意識をもたせるために，前時に行った試しの迷子探しゲームで，迷子を見つけられたときと迷子を見つけられなかったときの理由を確認して，課題を焦点化する。**
しらべる・ふかめる	２　２つのアナウンスの違いを話し合う。 アナウンスAは分かりづらかったよ。シャツやズボンの色を知らせていなかったから。 アナウンスBは分かりやすい。シャツやズボンの色をくわしく話していたから。 アナウンスAでも，水筒やリュックサックのときには色のことを話していたよ。 色や持ち物など，大事なことを選んで話すといいね。	23	○　服装の特徴・持ち物を表す言葉の中で「色」が不足していると迷子を特定しづらいことに気付かせるために，アナウンスＡを提示して「なぜ，迷子が分かりづらかったのかな。」と問い，その理由を話し合わせる。 ○　「色」を表す言葉があると迷子を特定しやすいことに気付かせるために，アナウンスＢを提示して，「なぜ，迷子が分かりやすかったのかな。」と問い，理由を話し合わせる。 **○　服装の特徴・持ち物を表す複数の言葉の中から迷子の特定につながる大事な言葉が何か考えさせるために，２つのアナウンスが一文ずつ書かれたカードを提示し，「Ａ・Ｂの話し方で迷子が分かりやすいのはどの言葉かな。」と問い，最も分かりやすい話し方を選ばせる。**
ふりかえる・いかす	３　別の人物を選び，迷子探しゲームをする。 大事なことは何かを考えて話すと分かりやす ４　学習のまとめを行う。 だいじなことはなにかをかんがえてはなせばよい ５　本時の学習を振り返る。 話すときも聞くときと同じようなコツがあるんだね。	15	○　大事なことを落とさずに話せたことを実感させるために，「どんなことに気を付けて話したのかな。」と問い，相手に話が伝える上で気を付けたことを振り返らせる。

図１　本時の実際

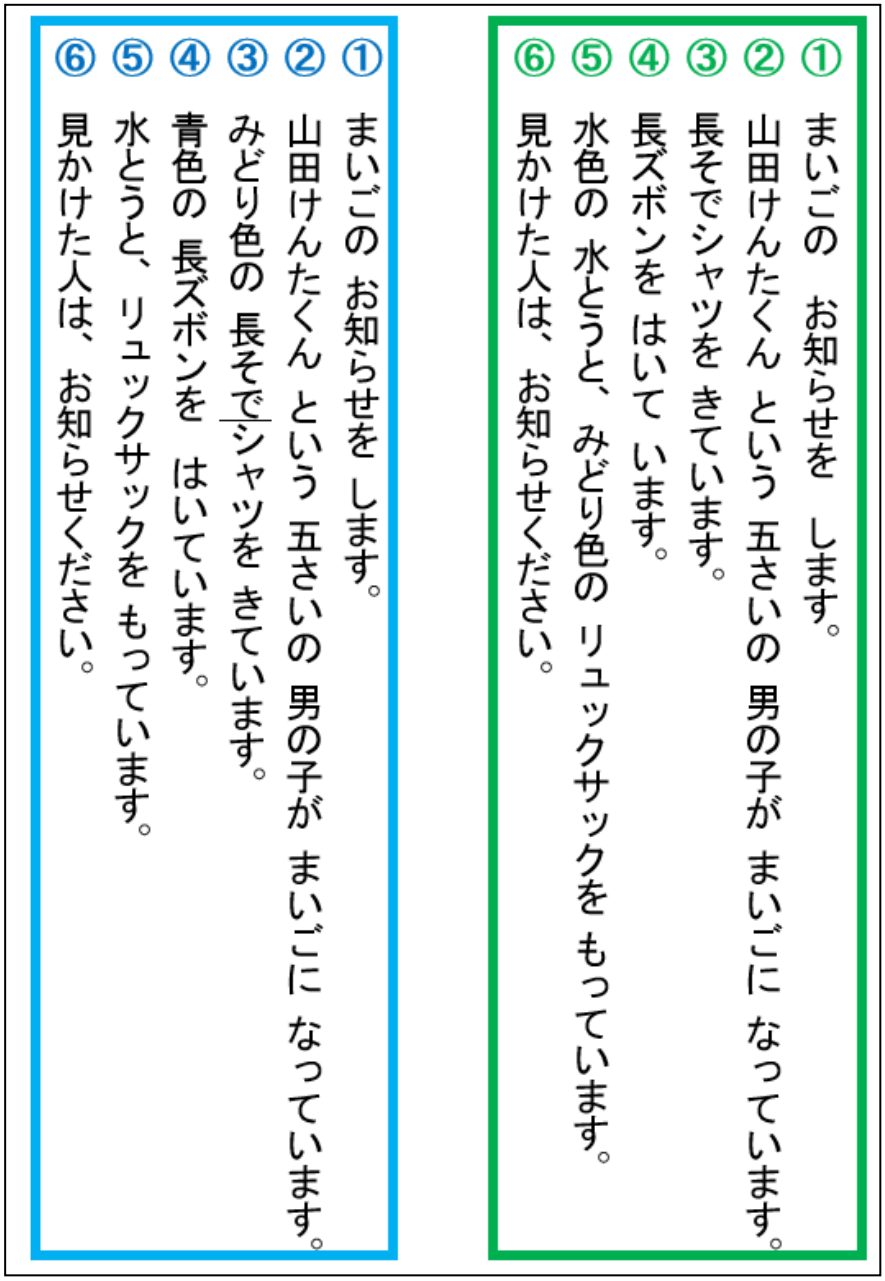

図２　アナウンスＡ・Ｂ

写真１　実際に行った授業の板書

7. 今後の方向性

今回は，主に「話すこと・聞くこと」領域について自分の思いや考えを構築する言葉を見いだす国語科学習指導について実践を行ってきた。今後は，「書くこと」「読むこと」領域でも研究を進めていくと共に，子どもの実態や育成すべき資質・応力を踏まえた単元の開発や言語活動の設定について研究していく。

8. おわりに

本報告は，鹿児島大学教育学部附属小学校令和元年度研究紀要で発表した研究内容に基づき，国語科教育における研究をさらに発展させ，その成果をまとめたものである。